

いりょう もち にほんご
医療で用いる「やさしい日本語」
しんがた ころなういるす けんさへん
新型コロナウイルス検査編



「やさしい日本語」:
相手に合わせて分かりやすく伝える日本語です。日本語を母語としない方、高齢者、障がいのある方など、様々な方に用いられます。

体温の測定

熱を測ります、調べます。
ここに挟んでください。

部位は手で示す



血圧の測定

血圧を測ります、調べます。
この椅子に座ってください。



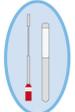
酸素飽和度の測定

からだの酸素を測ります。
指をここに入れてください。



検体採取(鼻咽頭ぬぐい液)

鼻にこれを入れます。
実物を見せる



ここ(あご)をあげて下さい。
動作は自分でやってみせる

頭の後ろに手を当てます。



結果の説明

明日には、結果がでます。
電話をします。



日にちは、カレンダーを指すなどして、具体的に伝える

「やさしい日本語」の答えは一つではありません。いろいろ言い換えてみましょう。 作成:医療×「やさしい日本語研究会」

日本にお住いの外国人には、英語よりも日本語の方が理解しやすいことが、これまでの様々な調査で明らかになっています。このパンフレットは、新型コロナウイルス検査を行う所定の検査・医療機関の医療者の方に向けて作成しました。日本語を母語としない方にも理解される「やさしい日本語」を用いて説明しています。

検査の説明を以下に示します。一般的な日本語と「やさしい日本語」の違いを見つけてください。

① 体温測定

では、体温を測定していただけますか。腋（わき）の下に挟んでしばらくお待ちください。

⇒では、熱を測ります、調べます。ここ(腋の下を指差す)に挟んでください。

② 入室～着席・血圧測定

どうぞお入りください。まず、血圧を測らせていただくので、こちらの椅子に腰かけて頂けますか？腕を失礼します。

⇒どうぞ入ってください。まず、血圧を測ります、調べます。この椅子に座ってください。

③ 酸素飽和度の測定

次に血液中の酸素量を測定します。指をお借りします。この中に入れてください。

⇒次にからだの酸素を測ります。指をここに入れてください。

④ 検体採取(準備・説明)

ではこれから、お鼻のなかに綿棒を差し入れます。奥まで入りますから、少し痛いかもしれませんが、我慢して、顔を動かさないようにしてください。

⇒ではこれから、鼻にこれ(綿棒)を入れます。少し痛いかもしれませんが。顔は動かさないでください。

⑤ 検体（鼻咽頭拭い液）の採取

すみません。少し顎を挙げてもらって、そうですね、その姿勢のまま、ちょっと後ろで顔が逃げないようにね、ちょっと手をあてさせてもらいます。(綿棒を挿入)。

⇒すみません。少しここ(顎)をあげてください。そのまま、動かないでください。頭の後ろに手をあてます。(綿棒を挿入)。

⑥ 終了時の説明

ありがとうございました。また、後日結果の方は電話でお知らせさせて頂く形になります。お大事になさってください。

⇒明日には結果が出ます。電話をします。

*これが正解と言うわけではありません。「やさしい日本語」は相手によって変わります。いろいろ言い換えて、理解される言葉を探しましょう。

「やさしい日本語」にするコツ

①体温より熱の方が日常的な言葉です。小さい子供も「熱がある」とは言えますが、「体温が高い」とはあまり言いませんよね。「ていただく」というのは尊敬語を含む形式なので、丁寧語だけ残して変換すると「測ります」となり、わかりやすくなります。ただし、動詞「測る」はやや難しいので「調べる」も付加すると相手の選択肢が増えます。依頼の形は「てください」が一番シンプルです。

② 「ので、から、が、けど、たら、て、」などの接続形式は、「。」に置き換えて文を短くしましょう。

③「測定します」は漢語なので、「測ります」という和語に変えると少しやさしくなります。

④「お鼻」と「鼻」では、アクセントが異なります。可能な限り名詞に「お／ご」はつけずにシンプルな形で話しましょう。物の名前は実物を見せましょう。

⑤顎のような体の部位は、指差しで伝えましょう。「させてもらいます」は謙譲語形式なので、「ます」に置き換えます。

⑥「後日」ではなくできる限り具体的な日を言いましょう。「形になる」といったぼかし表現はやめましょう。①同様、尊敬語をはずして「ます」で文を短く切っています。